

マークをクリックするとそのページを見ることができます



発生動向総覧
P.2-3

<41週> 水痘 - 例年通り冬期の増加が始まり、過去5年間の同時期に比べるとやや多くなった / その他最新動向



注目すべき感染症
P.4

<劇症型溶血性レンサ球菌感染症 - その3>
1999年4月～2002年38週までの報告では、合計182例のうち75例(41%)が死亡例として報告されている



病原体情報
P.5

患者から分離・検出された病原体報告 - 感染性胃腸炎 / 無菌性髄膜炎 / Vero毒素産生性大腸菌



速報

<今週は該当記事はありません>



海外感染症情報
P.6-8

セネガルでの黄熱流行 - 更新2 / 合衆国でのウエストナイルウイルス流行 - 更新6 / カナダでのウエストナイルウイルス - 更新4 / 三日熱マラリアの国内感染 - バージニア州2002年



感染症の話
P.9-11

回帰熱
流行地域での野外活動や不衛生な環境での生活により感染する輸入例には、十分な警戒が必要である



読者のコーナー
P.12



グラフ総覧(41週)
P.13-19



41週のデータ
P.20-27



発生動向総覧

第41週コメント 10月17日集計分

全数報告の感染症

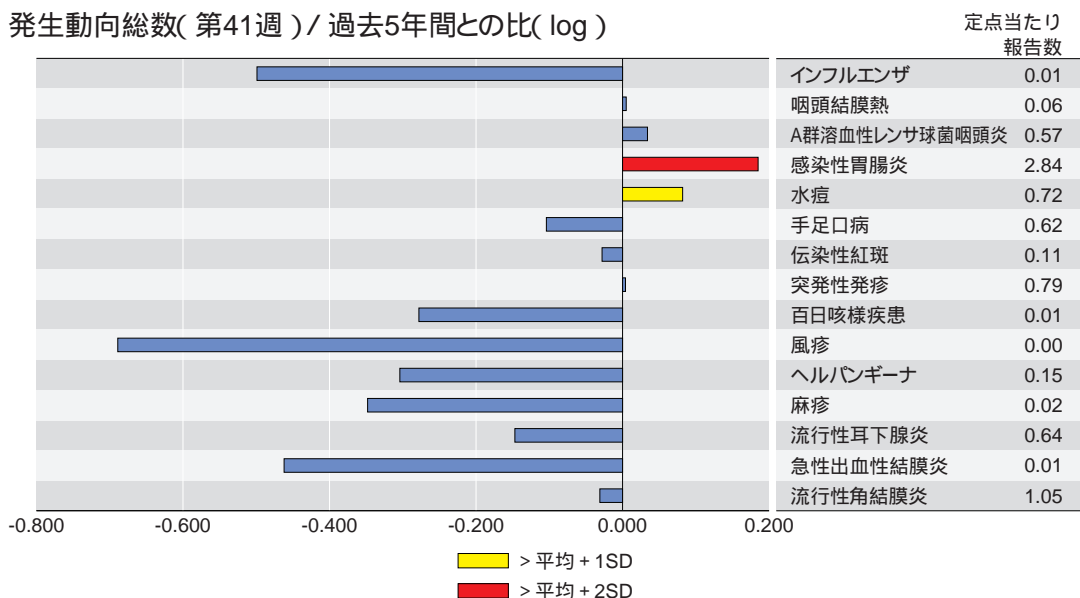
- 1類感染症: 報告なし
- 2類感染症: 細菌性赤痢9例(推定感染地:トルコ3例、インド、エジプト、タイ、ベトナム各1例、不明2例)
- 3類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症68例(うち有症者42例。大分県で40週から続く保育園内の感染事例の13例を含む)
- 4類感染症: アメーバ赤痢2例(推定感染地: 国内2例)、ジアルジア症2例(うち1例は細菌性赤痢の重複感染)、日本紅斑熱1例(島根県)、破傷風1例(70歳)、レジオネラ症3例、急性ウイルス性肝炎3例 B型3例(感染経路: 全て不明)、クロイツフェルト・ヤコブ病2例(ともに孤発性)、後天性免疫不全症候群8例(無症候7例、AIDS 1例)
 感染経路: 性的接触8例(異性間1例、同性間6例、不明1例)
 梅毒4例(早期顕症3例、晩期顕症1例)
 その他: 40週に診断されたE型肝炎1例あり。

定点把握の対象となる4類感染症(週報対象のもの)

感染性胃腸炎の定点当たり報告数は、過去5年間の同時期に比べるとかなり多く、都道府県別では宮崎県(12.6)、大分県(10.9)が非常に多い。水痘も例年通り冬期の増加が始まり、過去5年間の同時期に比べるとやや多くなった。都道府県別では、福井県(2.1)が最も多かった。

他の疾患の定点当たり報告数は、過去5年間の同時期と比べて多くなってはいないが、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎とマイコプラズマ肺炎は、再びゆっくりと増加を始めている。都道府県別では、前者が愛媛県(1.4)、長野県(1.2)からの報告数が多く、後者は新潟県(1.5)が多い。咽頭結膜熱の定点当たり報告数は、全体としては減少傾向が続いている。無菌性髄膜炎は全体としては減少しているが、青森県(2.0)からの報告が非常に多い。流行性角結膜炎は全体としては減少を続けているが、群馬県(6.4)、宮崎県(6.3)からの報告数が多い。伝染性紅斑、手足口病、ヘルパンギーナ、麻疹(成人麻疹を除く)も例年通り順調に減少を続けている。都道府県別では、福島県(0.5)が他県(すべて0.1以下)に比べて麻疹(成人麻疹を除く)の定点当たり報告数が多い。インフルエンザは冬の流行シーズンを控え増加を始めた県(山梨県、鹿児島県)も見られるが、現在のところ全国での定点当たり報告数(0.01)は非常に少ない。風疹も近年の同時期で最も定点当たり報告数が少ない状態が続いている。

発生動向総数(第41週)/過去5年間との比(log)

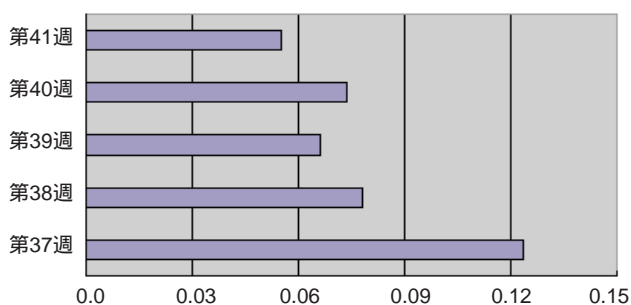


当該週と過去5年間の平均(過去5年間の前週、当該週、後週の合計15週の平均)の比を対数にてグラフ上に表現した。1標準偏差を超えた場合黄で、2標準偏差を超えた場合赤で色分けしている。

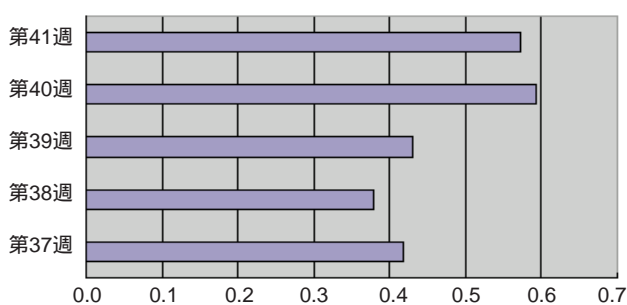
最近の注目疾患－5週間の動き

水痘、手足口病の定点当たり報告数は前週に比べ増加しているが、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、伝染性紅斑、ヘルパンギーナの定点当たり報告数は前週に比べて減少している。

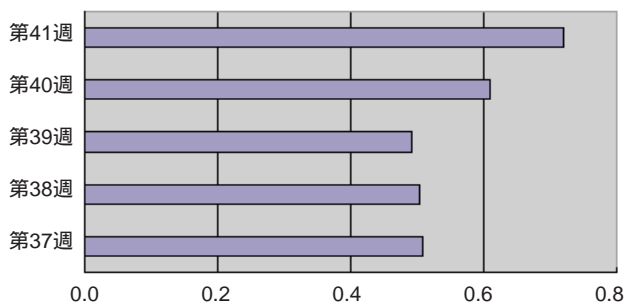
咽頭結膜熱



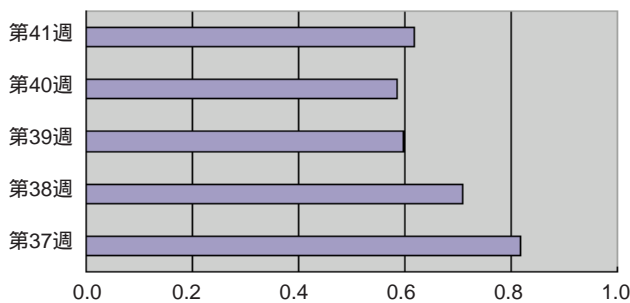
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



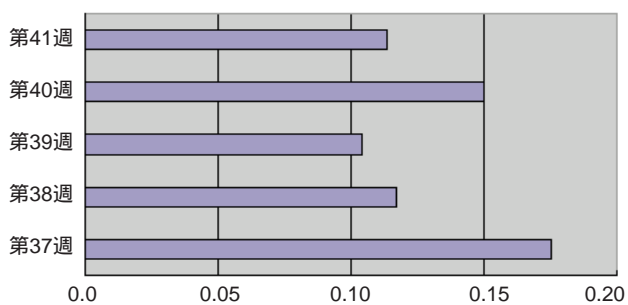
水痘



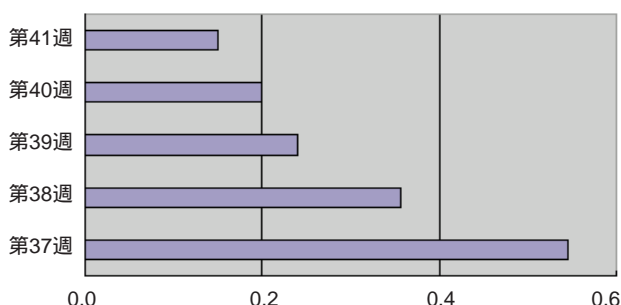
手足口病



伝染性紅斑



ヘルパンギーナ



(注) グラフの横軸は各疾患の定点当たり報告数(報告総数/定点総数)を表す。疾患によって目盛りのスケールが違うことに注意。



注目すべき感染症

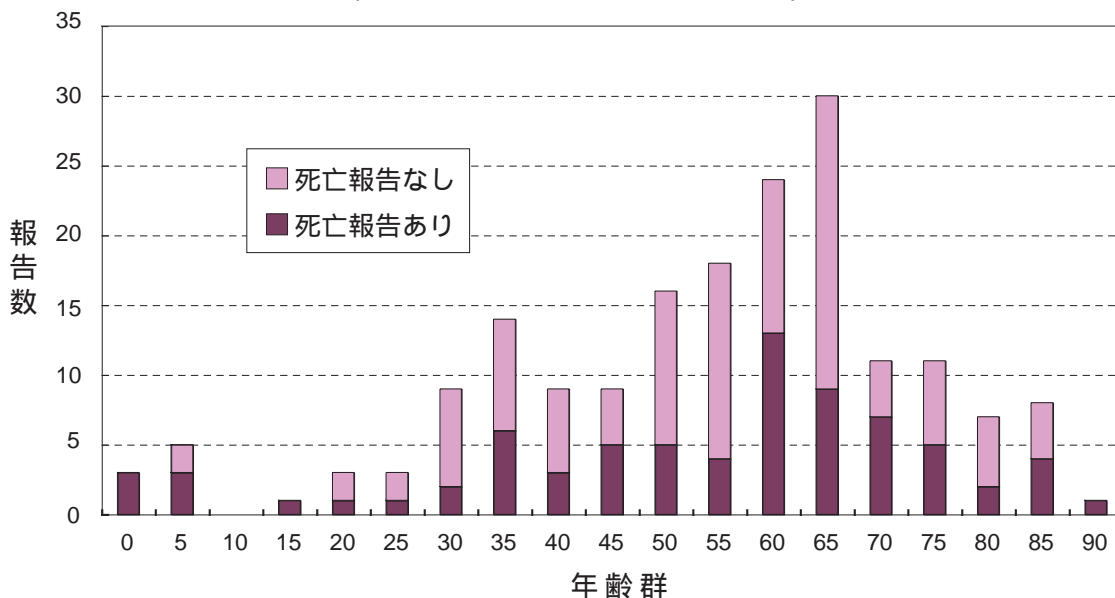
劇症型溶血性レンサ球菌感染症 - その3

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は非常に重篤な感染症であり、いったん発病すると数十時間以内に軟部組織壊死、急性腎不全、急性呼吸促進症候群(ARDS)、播種性血管内凝固症候群(DIC)、多臓器不全(MOF)を引き起こし、ショック症状から死に至ることがある。

1999年4月～2002年38週までの報告では、合計182例のうち75例(41%)が死亡例として報告されている。年齢毎における死亡例の割合を図に示す。20歳未満の若年齢者では、致死率は78%と高くなっているが、20～59歳の年齢群では33%と低くなっている。

米国などでは過去5年間症例数に大きな変化はないが、M-1,M-3型の毒素による重症例が多くなってきているとのことである。我が国の致死率は1999年45.4%、2000年42.6%、2001年39.1%、2002年40.3%であり、1999年から2002年にかけてはやや致死率は減少してきているが、それでも4割程度が死亡と報告されており、今後とも注意深く発生動向を監視する必要がある。

図：年齢群別致死率（1999年4月～2002年38週）
（報告時に死亡年月日が報告された例の割合）





病原体情報

*グラフはIASRホームページ(<http://idsc.nih.go.jp/iasr/index-j.html>)からの引用です。
(2002年10月18日現在報告分)

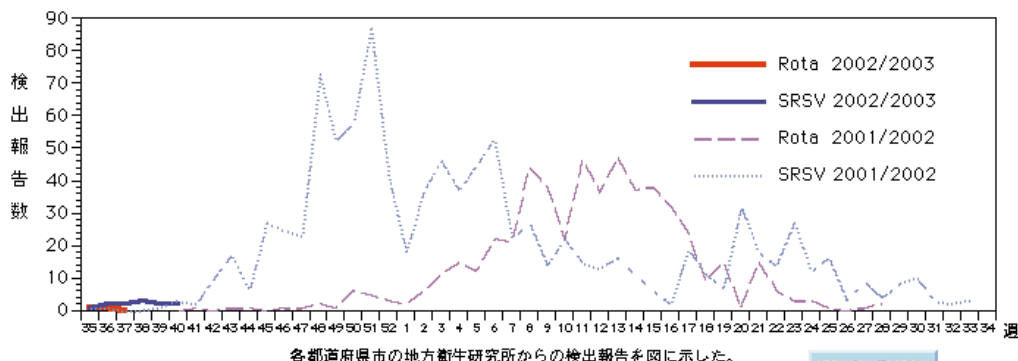
感染性胃腸炎 2001/02シーズン(まとめ)&2002/03シーズン

冬季の感染性胃腸炎の主な病原体はSRSVとロタウイルスである。2001/02シーズンのSRSVの検出は計1,009件で、内訳はノーウォーク様ウイルス(NLV)genogroup(G)II 620件、NLV GI 53件、NLV G unknown 223件、サッポロ様ウイルス(SLV)32件、電顕による検出81件であった。ロタウイルスは計527件(A群495件、群不明32件)が報告された。SRSVは2001年第42週頃より増加し、第51週をピークに減少したが、2002年第3～6週に再増加した。ロタウイルスは2002年第2週頃から増加し、第7週を境にSRSVの報告数を上回ったが、第20週以後SRSVがロタウイルスを再び上回った。過去2シーズンと比較すると、SRSVは夏季の報告が多かった。

2002/03シーズンに入り、第35～40週までにSRSVの検出は、NLV GII 8件、NLV G unknown 4件が東京都、島根県、愛媛県、福井県、仙台市から報告されている。ロタウイルスは、A群が2件(第35週に東京都1、第36週に島根県1)報告されている。

週別 SRSV & ロタウイルス検出報告数の推移、2002/2003シーズン

(病原微生物検出情報: 2002年10月18日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの検出報告を図に示した。



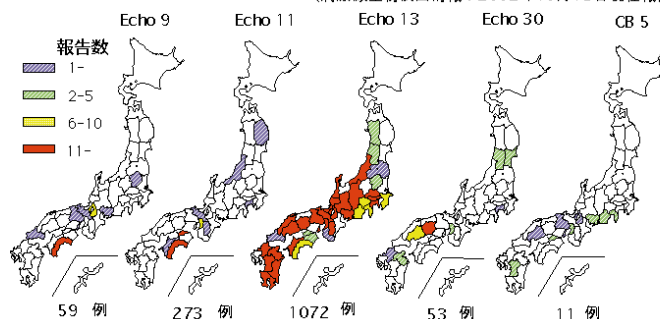
Infectious Agents Surveillance Report

無菌性髄膜炎患者から分離されたウイルス 2002年

エコーウイルス(E)1,489件(13型1,072、11型273、9型59、30型53、6型25など)、ムンプスウイルス51件、B群コクサッキーウイルス47件(2型20など)、A群コクサッキーウイルス4件の分離が報告されている。E13は九州から東北地方にかけて35都府県(広島県273、大阪府81、福井県、愛知県各65など)から報告されている。

都道府県別無菌性髄膜炎患者からの主なウイルス検出状況、2002年

(病原微生物検出情報: 2002年10月18日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの分離報告を図に示した。



Infectious Agents Surveillance Report

ヒトから分離されたVero毒素産生性大腸菌 2002年

検出総数は1,115件で、うちO157が730件(栃木県163、大阪府107、石川県73など)、O26が229件(長野県55、宮城県35、佐賀県28など)、O111が74件(佐賀県52など)、O121が27件(佐賀県23、秋田県4)、その他の血清型が55件である。



海外感染症情報

* 関連の情報やさらに詳しい情報については、FORTHホームページ(<http://www.forth.go.jp/>)をご覧ください。

セネガルでの黄熱流行 - 更新2

WHO/CSR 2002年10月18日

10月17日現在、保健省は患者18例、死亡患者2例を確定診断した。黄熱は、Diourbel郡のTouba, Mbacke, Bambey地方、Fatick郡のGossas地方で流行している。検査による確定診断は、WHO協力研究所であるダカールのパスツール研究所で行われた。15例がToubaからの報告であった。

集団予防接種キャンペーンが10月1日から開始され、Touba, Diourbel, Bambey, Mbackeの4保健管区で80万人が接種を受けた。WHOによる評価ではキャンペーンは順調であるが、接種計画を完遂するためにワクチンが緊急に必要である。

Touba市での第2回殺虫剤撒布キャンペーンが、10月15～17日に国立衛生局により実施された。Toubaでの昆虫学的検討によると、都市型黄熱の爆発的流行の原因となるネッタイシマカが増加していた。この結果を受け、媒介蚊対策に、ポウフラ対策と市民に対する蚊の生育源の除去教育が追加される。

国内の保健所には黄熱サーベイランスの強化が通知された。保健所には、標準の診断基準に適合する全ての症例を24時間以内に中央に報告することが指示された。特に、ダカールでのサーベイランスと媒介蚊対策の強化が中心にすえられた。保健省、ダカールのパスツール研究所、WHOのスタッフを含むチームがサーベイランスと患者調査活動を主導している。150例の疑い患者の検体が、検査のため検査施設に送られた。

WHOはサーベイランス、ワクチン接種、流行対策の調整に関し、保健省を支援している。また、WHOはワクチン購入支援のための提供者を捜している。

合衆国でのウエストナイルウイルス流行 - 更新6

WHO/CSR 2002年10月15日

2002年10月11日現在、CDCの西半球昆虫媒介ウイルスWHO協力センターは、米国の35州とワシントンDCでウエストナイルウイルス患者2,946例、そのうち死亡例160例を報告した。2002年、ウエストナイルウイルス活動性(トリ、ヒト、蚊、ウマを中心とする他の動物の感染に基づく)は43州とワシントンDCで報告された。

カナダでのウエストナイルウイルス - 更新4

WHO/CSR 2002年10月15日

10月11日現在カナダ保健省は、累計69例のウエストナイルウイルス感染例を報告した。49例は疑い例で、20例が確定診断例であり、そのうち1例は死亡例である。疑い11例と確定診断3例がケベック州住人であり、他の疑い148例と確定診断17例はオンタリオ州住人である。確定診断例1例は合衆国旅行中の感染と考えられ、他は居住地での感染と考えられている。

三日熱マラリアの国内感染 - バージニア州 2002年

CDC/MMWR 2002年10月18日 51(41);921-923[edited]

<<http://www.cdc.gov/mmwr/preview/mmwrhtml/mm5141a1.htm>>

米国におけるマラリアの感染は20世紀中頃にほぼ撲滅された。しかし、局地的な蚊によるマラリア感染の散发例は依然として発生している。1997年以来、今回のバージニア州での流行を含め、4件の蚊によるマラリア感染流行がCDCに報告された。この報告では、2002年8月にバージニア北部で発生した三日熱マラリアの2例の症例報告を行い、医師に対し、不明熱患者ではマラリアの可能性を考慮することを強調したい。

症例報告:

[症例1.] 2002年8月23日、バージニア北部の19歳の患者が、倦怠感、発熱、悪寒の症状で第4病日に家庭医を受診した。この患者は同時に筋肉痛、鼻腔の疼痛を伴っていた。副鼻腔炎の診断で、アジスロマイシンとデスロラタミドを処方された。4日後に、さらに幻暈と悪心の症状を呈して受診した。

受診時理学所見は、体温39.7℃、頻脈であった。血算は、汎血球減少(Plt 61,000、Hb10g/dl、WBC 3,300)であった。治療は経口のレボフロキサシンに変更された。続いて、2回目の受診時の通常の血液塗抹検査でマラリア原虫が検出された。患者に連絡を取り、クロロキン治療を開始した。大学病院で最初のマラリアスミアを再検鏡し、三日熱マラリアの診断がついた。この患者は3日間のクロロキン治療を行い、G6PDが正常であったので、プリマキン治療を14日間行った。この患者は完全寛解に至った。

[症例2.] 2002年8月25日、バージニア北部の15歳の患者が2週間の頭痛と4日間の発熱、悪心、嘔吐、鼻出血で地域の救急病院を受診した。理学所見は、40.6℃、頻脈、脾腫、黄疸であった。検査所見は、汎血球減少(Plt 48,000、Hb11.6g/dl、WBC 3,200)であった。マラリアスミア検査により、非熱帯熱性のマラリア原虫が検出された。この患者は入院し、キニーネとクリンダマイシンによる治療を行った。スミアはその後バージニア州保健局により三日熱マラリアと診断された。患者の主治医は、患者の耳鳴のためキニーネの中止が必要になったため、2002年8月28日に推奨治療方針に関しCDCに相談した。クロロキン3日の治療により患者は完全に寛解し、2002年8月31日に退院した。G6PD正常の結果により、プリマキン14日の投与が引き続き行われた。

疫学調査:

この2例には、海外旅行、輸血、臓器移植、針の使い回しなどのマラリアの危険因子は無かった。この患者はお互いに0.5マイル離れた場所に居住していた。しかし、19歳の患者は15歳の患者の居住地の道路向かいの友人宅を頻回に訪問していた。患者の家の近くの住人に対し、最近の発熱について聞き取りが行われた。患者の隣人の登録してある2病院のカルテを再チェックし、原因不明の発熱を示した患者のカルテを入手した。原因不明の熱性疾患を呈した患者はいなかった。再調査可能な224病院の記録で、特記事項すべき原因のない発熱患者21人がリストアップされ、1例が症状が持続していた。しかし、塗抹血液標本は陰性であった。バージニア州北部では、さらなる症例は報告されていない。

ワシントンのダレス国際空港は患者の家から10km以内である。空港には、三日熱マラリアが流行している国からの直行便が来航している。病気の旅行者は、調査した患者発見のための調査を行っている病院のいずれかのひとつに送られる。近くにある2カ所の陸軍基地の医師に問い合わせたところ、マラリア流行地から戻った兵士にはマラリアや不明熱を呈した患者はいないと報告した。

環境と昆虫学的調査:

患者の家を訪問した。一軒は、網戸のない窓や、あまり防虫されない窓があった。もう一軒は窓にも玄関にも網戸があった。両方とも近くに小川と池のある林があった。現在実施されているウエストナイルウイルスサーベイランス活動の一環で、患者の家から10マイル以内のハマダラカを捕獲したところ、*Anopheles quadrimaculatus* と *An. punctipennis* が捕獲された。

約870匹のハマダラカが検査され、9/25, 27, 10/1, 6, 11に患者の家から2～6マイル内で捕獲された5群(1群あたり蚊4～6匹)で、フィールドテスト(VecTest*[Medical Analysis Systems, Inc., Camarillo, California])を用いた三日熱マalaria原虫の210 circumsporozoite 蛋白が検出された。確定検査のためのPCR検査を行ったところ、陽性の蚊はなかった。しかし、VecTest陽性蚊群を確認のための調査努力が継続されている。

MMWR編集者のコメント:

米国での1970年のマalaria撲滅宣言にもかかわらず、10件の流行で17例の蚊によるマalaria感染疑い例が発生した。今回のビクトリア北部からの2例は、1999年以来の米国国内感染例であり、バージニアで2件目の報告である。これらの流行では共通した以下の特徴が見られる: 1) マalaria感染の危険因子の見られない初発例、2) マalaria原虫血症患者の近隣での発生の可能性、3) 媒介蚊の存在、4) 媒介蚊体内での原虫生育に適した環境、などである。米国では毎年約1,000～1,500例のマalaria感染患者がCDCに報告されている。その大多数は流行国からの旅行者である。バージニア州北部での2例は、おそらく近隣のマalaria感染者から蚊を介した感染であろう。合衆国の蚊のいくつかはマalariaを媒介する能力がある。患者の家の周囲で捕獲された *An. quadrimaculatus* と *An. punctipennis* は、過去のマalaria感染例でも関連が見られた。

多数の蚊の群がVecTestを用いて調査された。このキットは国際的に一般的に使用されているが、米国での蚊の調査での使用は初めてである。約870匹中5群陽性は、予想外に高い比率であり、合衆国での過去の蚊の調査で例がない。VecTestのような迅速スクリーニング検査は過去には使用できなかった。しかしながら、VecTestは合衆国でのマalaria調査での新しい道具であるので、その有効性はまだ明らかでなく、PCRによる確認検査が必要である。VecTestとPCRを用いた検査の適応基準を検討している。今回の調査結果は、医師に対し、不明熱の患者の鑑別にマalariaを考慮する重要性を示している。迅速診断と効果的な抗マalaria薬による治療は患者管理の基本であり、同時に患者からの二次感染を予防する。ウエストナイルウイルス曝露を最小限にするための勧告と同じ注意が、マalaria感染蚊曝露のリスクを最小限にするために必要である。地域保健局に対するマalaria患者発生の迅速な報告は、マalaria孤発例での制圧対策開始に有用である。



感染症の話

回帰熱

疫学

回帰熱(relapsing fever)は、齧歯類小動物、鳥類等を保菌動物とし、野生のダニ(オルニソドロス属ダニ)やシラミによって媒介される細菌(スピロヘータ)感染症である。アメリカ大陸、アフリカ、中東、欧州の一部で患者の発生が報告されている。本邦では、少なくともここ数十年、患者は報告されていない。

世界における近年の事例

流行地域での感染事例: 米国のグランドキャニオンを含むロッキー山脈は古くから回帰熱の流行地域として知られている。Paulら¹はグランドキャニオン国立公園を訪れた観光客約10,000名について疫学調査を行い、流行地域内での保菌動物と接触する機会に比例して患者が発生する傾向があることを報告している。殊に、ネズミ駆除が完全でない宿泊施設内での感染が疑われる例が15例中7例をしめた。主な病原体は*Borrelia hermsii*と推測された。

また、1999年米国テキサス州において、野外キャンプ中での感染が疑われた例が報告されている²。この学童はキャンプ中に洞窟探検をしており、この洞窟内で採取したダニからは回帰熱病原体*Borrelia turicatae*が分離されている。

流行地域からの輸入事例: 西アフリカからオランダへ帰国した女性2名が回帰熱の診断を受けた³。1例はガボンで、もう1例はセネガルでの感染が疑われた。いずれも病原体が検出されており、感染種は*Borrelia crocidurae*と同定された。同様の事例はColebundersら⁴によっても報告されている。

本邦では、保菌節足動物、若しくは感染した哺乳動物(野鼠など)は見つかっていないことから、国内での感染の機会は極めて低いと考えられる。しかし、流行地域での野外活動や不衛生な環境での生活により感染する輸入例には、十分な警戒が必要である。

臨床症状

菌血症による発熱期、および感染は持続しているものの菌血症を起こしていない状態(無熱期)を数回繰り返す、いわゆる回帰熱が臨床上的の特徴である。致死率は、治療を行わない場合、病原体の種類や健康状態等によっても異なるが、数～30%といわれている。

[発熱期] 感染後5～10日を経て菌血症による頭痛、筋肉痛、関節痛、羞明、咳などをともなう発熱、悪寒がみられる。このとき、髄膜炎、点状出血、紫斑、結膜炎、肝臓や脾臓の腫大、黄疸がみられることもある。発熱期が3～7日続いた後、一旦解熱し無熱期に移行する。

[無熱期] 無熱期では血中からは菌は検出されない。発汗、倦怠感、時に低血圧症や斑点状丘疹をみることもある。この後5～7日してから、再び発熱期に入るとされている。

上記症状以外として、肝炎、心筋炎、脳出血、脾臓破裂、大葉性肺炎などがみられる場合もある。

病原体ボレリア

回帰熱病原体であるボレリアには少なくとも十数種類が確認されている(表1)。これらのボレリアはいずれもダニ媒介性或いはシラミ媒介性で、ダニ媒介性回帰熱の場合、媒介ダニの分布地域と患者発生地域はほぼ一致する。他のボレリア感染症としてライム病があるが、病原体の種類は回帰熱ボレリアとは異なる。

表1. 回帰熱ボレリアの種類、媒介動物、及びその分布地域

種名	媒介動物	病原体の分布地域
シラミ媒介性		
<i>Borrelia recurrentis</i>	<i>Pediculus humanus</i> subsp. <i>humanus</i>	全世界
ダニ媒介性		
<i>B. hermsii</i>	<i>Ornithodoros hermsi</i>	カナダ、アメリカ西部
<i>B. turicatae</i>	<i>O. turicata</i>	アメリカ南西部
<i>B. parkeri</i>	<i>O. parkeri</i>	アメリカ西部
<i>B. mazzottii</i>	<i>O. talaje</i>	アメリカ南西部、メキシコ、中南米
<i>B. venezuelensis</i>	<i>O. rufus</i>	中南米
<i>B. duttonii</i>	<i>O. moubata</i>	アフリカ中部、東部、南部
<i>B. hispanica</i>	<i>O. maroccanus</i>	スペイン、ポルトガル、モロッコ、アルジェリア、チュニジア
<i>B. crocidurae</i> , <i>B. merionesi</i> , <i>B. microti</i> , <i>B. dipodilli</i>	<i>O. erraticus</i>	アフリカ東部、北部、アフリカ寄りの中東・南東部
<i>B. persica</i>	<i>O. tholozani</i>	中東、ギリシャ、中央アジア
<i>B. caucasica</i>	<i>O. verrucosus</i>	イラク、旧ソ連南部
<i>B. latyschewii</i>	<i>O. tartakowskyi</i>	旧ソ連中南部、南西部、イラク、イラン、アフガニスタン

病原体診断

病原体の分離 病原体ボレリアの分離培養にはBSK培地が用いられ、発熱期の血液から病原体分離が可能である。分離用培地は国立感染症研究所で常備している。

形態の確認 発熱期の血中に、暗視野顕微鏡下で病原体が観察できる。アクリジンオレンジ染色、ギムザ染色で病原体は染色される。

治療・予防

回帰熱には抗菌薬による治療が有効である⁵⁾。ダニ媒介性回帰熱の場合にはテトラサイクリンが用いられる。シラミ媒介性回帰熱の場合は、テトラサイクリンとエリスロマイシンの併用、若しくはドキシサイクリンが有効とされている。小児の場合はエリスロマイシンが推奨されている。治療にともないJarisch-Herxheimer反応がみられることもある。

予防には、媒介ダニ、シラミとの接触をさけることが重要である。保菌ダニが生息する地域では、ダニが生息する洞窟、廃屋などにはなるべく近寄らないこと、また特に渡航中、近くで回帰熱発生の情報を得た場合には、シラミ、ダニ刺咬に注意することが極めて重要である。

予防を目的としたワクチンは開発されていない。

媒介動物

回帰熱ボレリアは、自然環境に生息するダニ若しくはシラミに咬着されることによって媒介、伝播される。

オルニソドロス属ダニ: アフリカ大陸、アメリカ大陸、欧州や中近東の一部の自然環境中に見いだされる軟ダニで、一般家庭内に生息するダニとは異なる。吸血時間は1時間以内といわれ、咬

着・脱落后に気がつくことが多いであろう。本邦では、オルニソドロス属ダニもしくはこれに近縁のヒメダニとして、クチビルカズキダニ、サワイカズキダニが見出されるが、限られた地域でのみ見出されていること、また、クチビルカズキダニはカリオス属とする証拠が提出されていることから、これら軟ダニを介したボレリア感染の可能性は低いと考えられる。

シラミ: ヒト寄生性シラミが媒介すると言われているが、詳細については不明である。一般的にシラミはヒトから吸血することから、吸血されたヒトが回帰熱ボレリアを保有していないかぎり次の感染が起こる可能性は極めて低いと考えられる。本邦ではシラミ刺咬症が多発しているが回帰熱は報告されていないことから、輸入例を除き、国内でのシラミ刺咬による回帰熱は今のところ心配ないと考えられる。

感染症法における回帰熱の取り扱い

回帰熱は4類感染症全数把握疾患に定められており、診断した医師は7日以内に最寄りの保健所に届け出る。報告のための基準は以下の通りとなっている。

診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下のいずれかの方法によって病原体診断がなされたもの。

- ・病原体の検出
 - 例、発熱期の血液からの分離培養
 - 暗視野顕微鏡下鏡検での病原体の確認など
- ・病原体の抗原の検出
 - 例、スミアの観察(蛍光抗体法)など

【参考文献】

- 1) Paul WS et al: Outbreak of Tick-borne relapsing fever at the north rim of the Grand Canyon: evidence for effectiveness of preventive measures. *Am J Trop Med Hyg.* 66, 71-75, 2002.
- 2) Davis H et al.: Tick-borne relapsing fever caused by *Borrelia turicatae*. *Pediatr Infect Dis J.* 21, 703-705, 2002.
- 3) Van Dam AP et al: Tick-Borne Relapsing Fever Imported from West Africa: Diagnosis by Quantitative Buffy Coat Analysis and In Vitro Culture of *Borrelia crocidurae*. *J Clin Microbiol.* 37, 2027-2030, 1999.
- 4) Colebunders R et al.: Imported relapsing fever in European tourists. *Scand J Infect Dis.* 25, 533-536, 1993.
- 5) Long SS et al ed. Principles and Practice of Pediatric Infectious Diseases. Churchill Livingstone, 1067-1069.

(国立感染症研究所細菌第一部 川端寛樹)



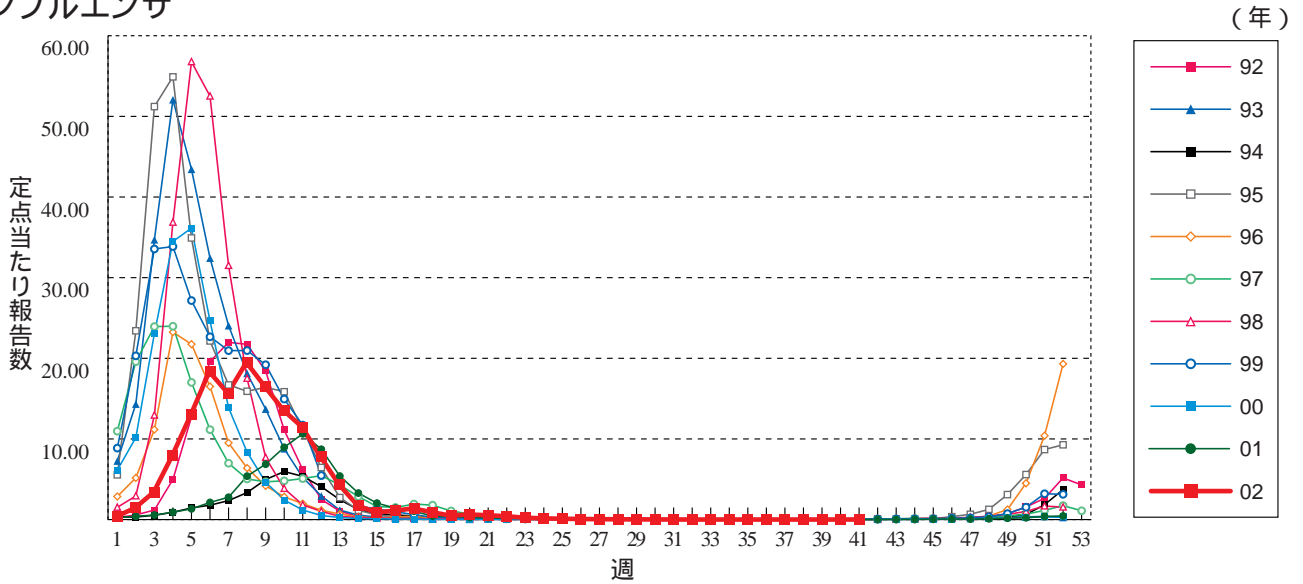
読者のコーナー

「読者のコーナー」では読者のみなさまからのご意見・ご質問をお待ちしております。
ご意見・ご質問は、題名(タイトル)の一番はじめにidwr-Q:をつけてこちらまでEメールでどうぞ。

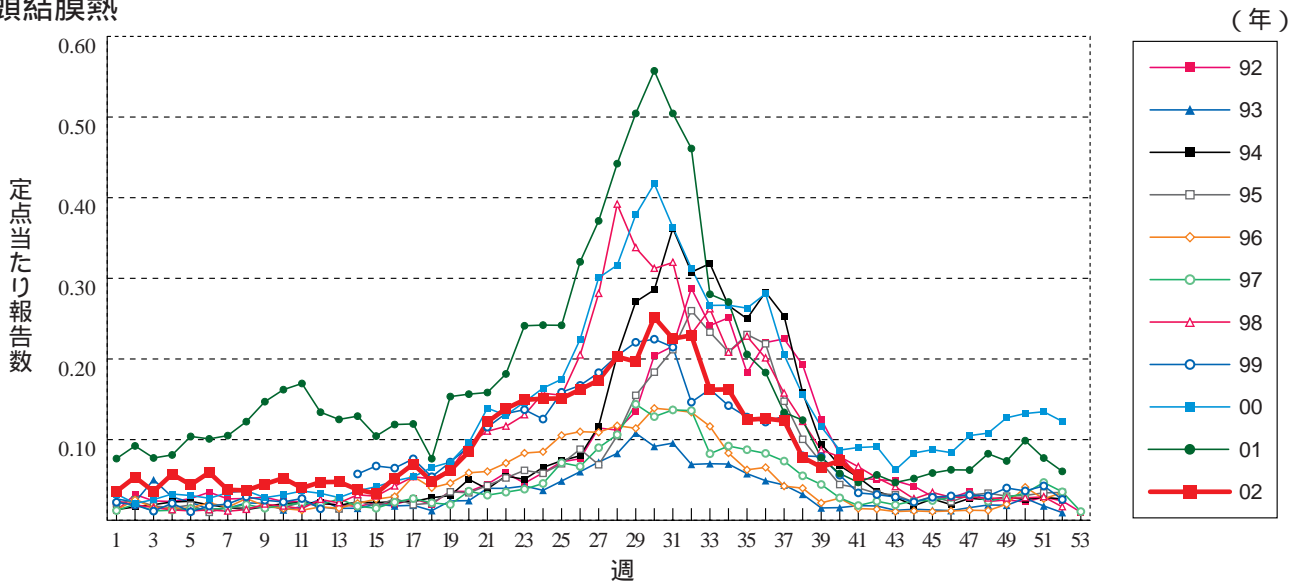
idsc-query@nih.go.jp

グラフ総覧(41週)

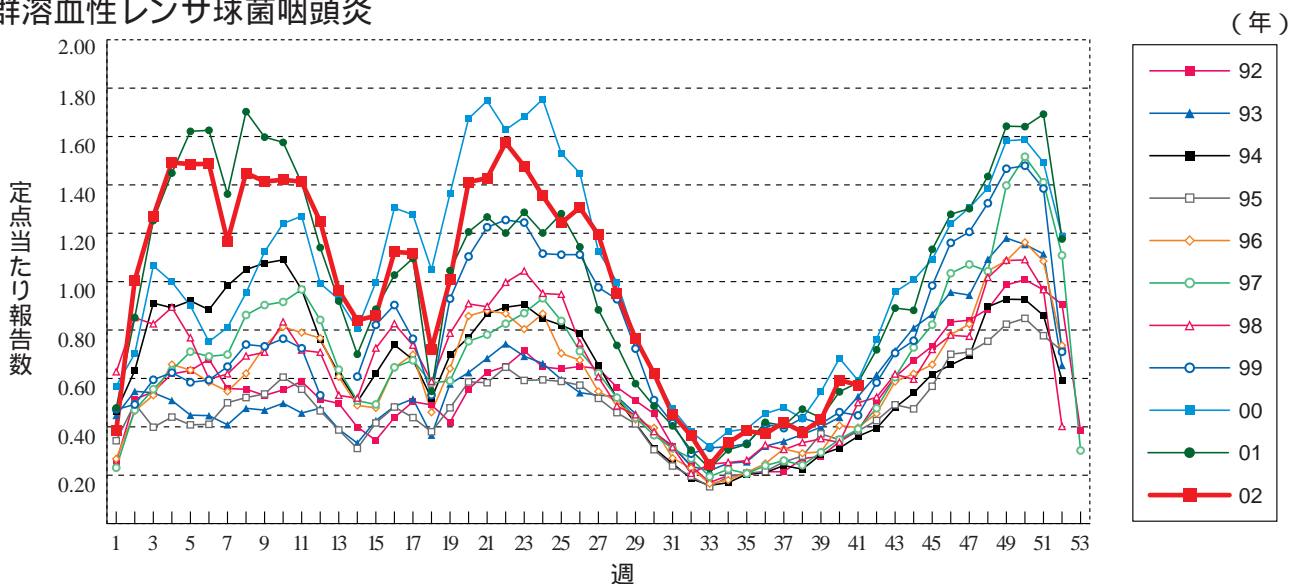
インフルエンザ



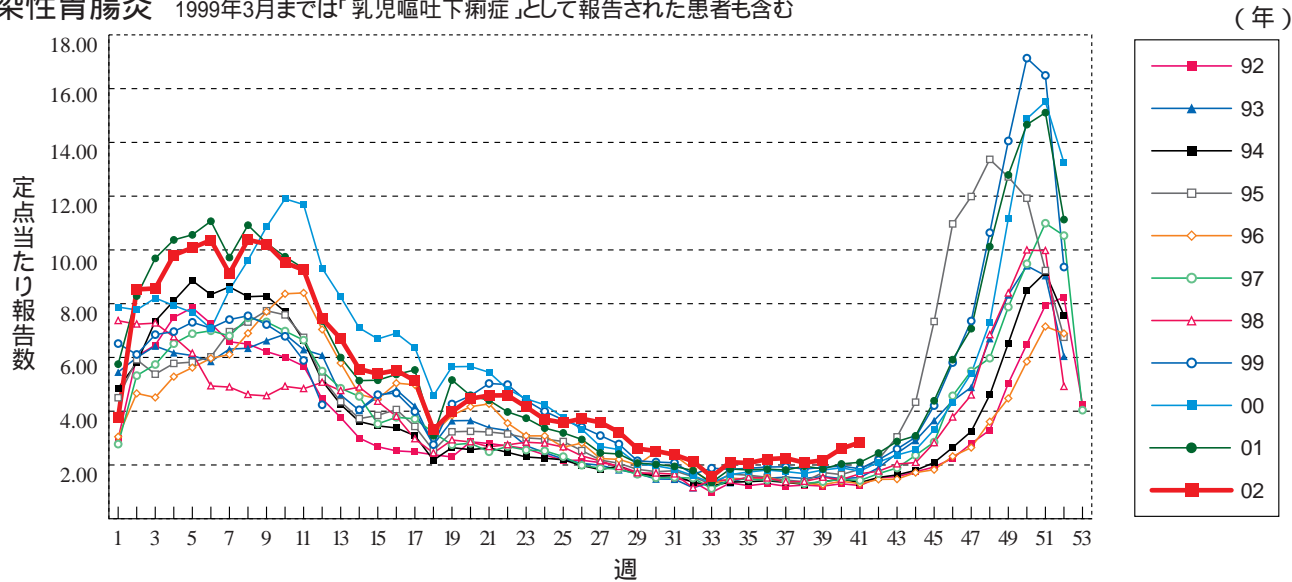
咽頭結膜熱



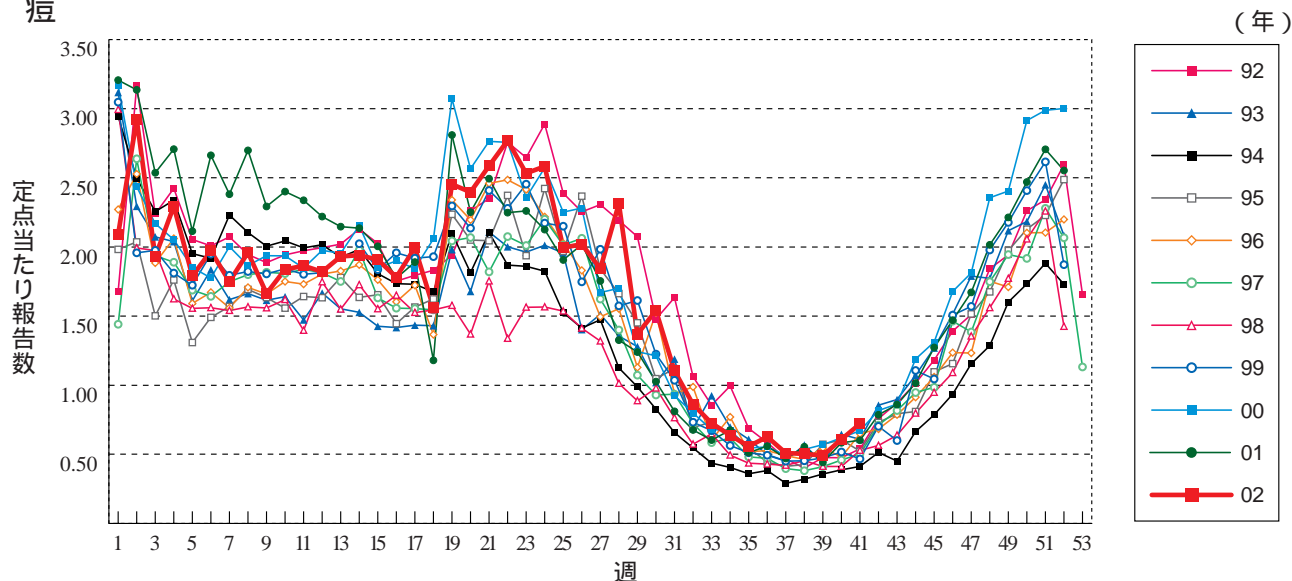
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



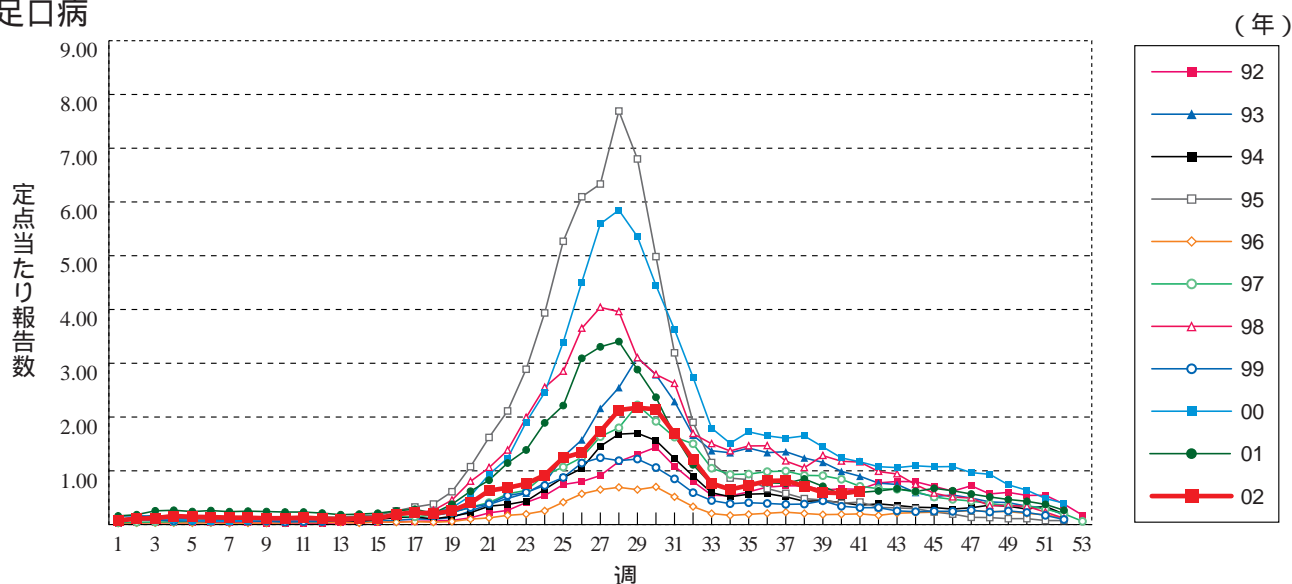
感染性胃腸炎 1999年3月までは「乳児嘔吐下痢症」として報告された患者も含む



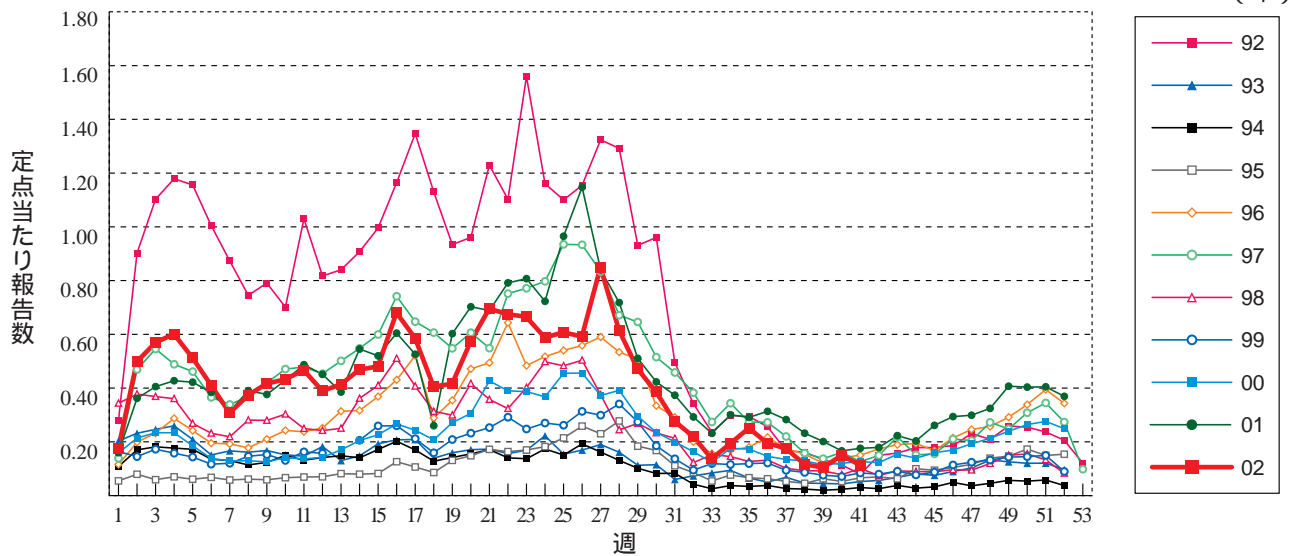
水痘



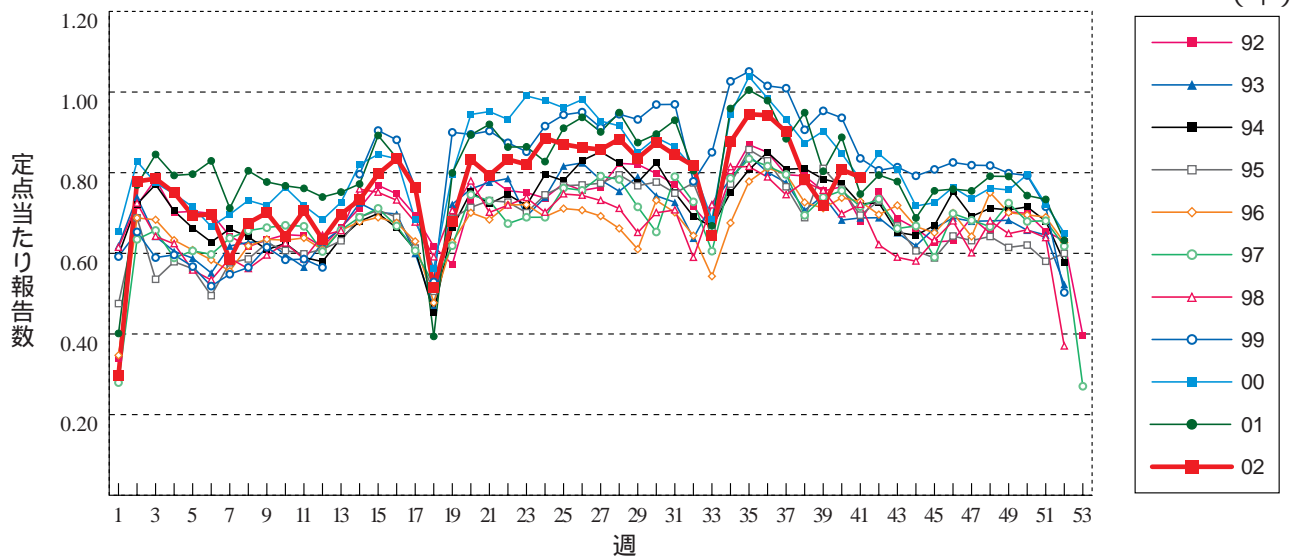
手足口病



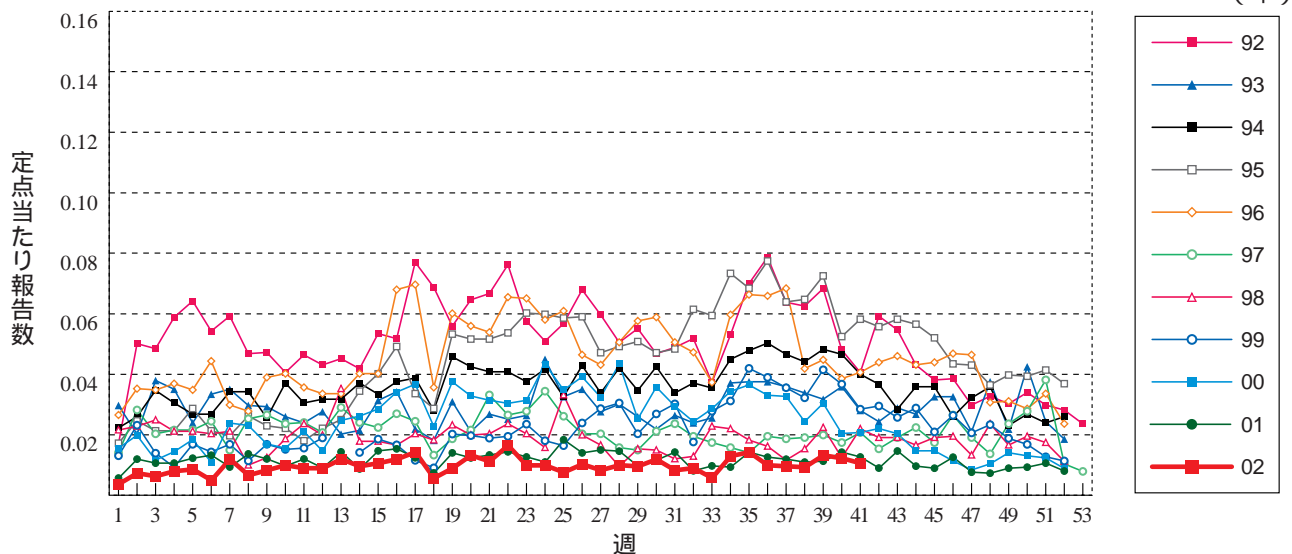
伝染性紅斑



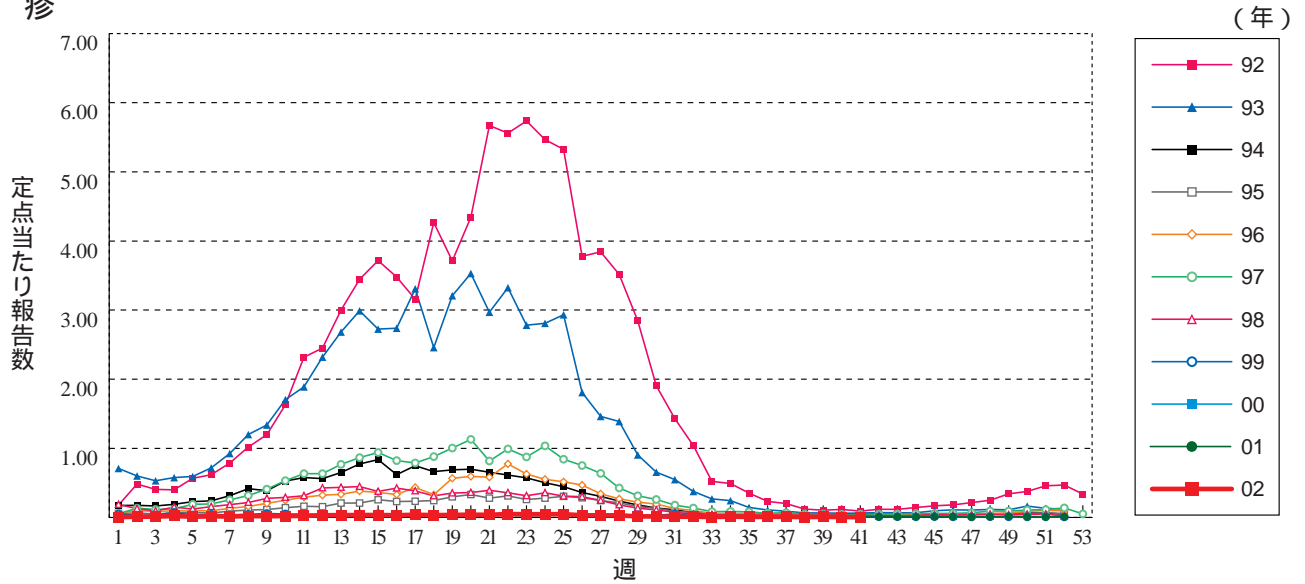
突発性発疹



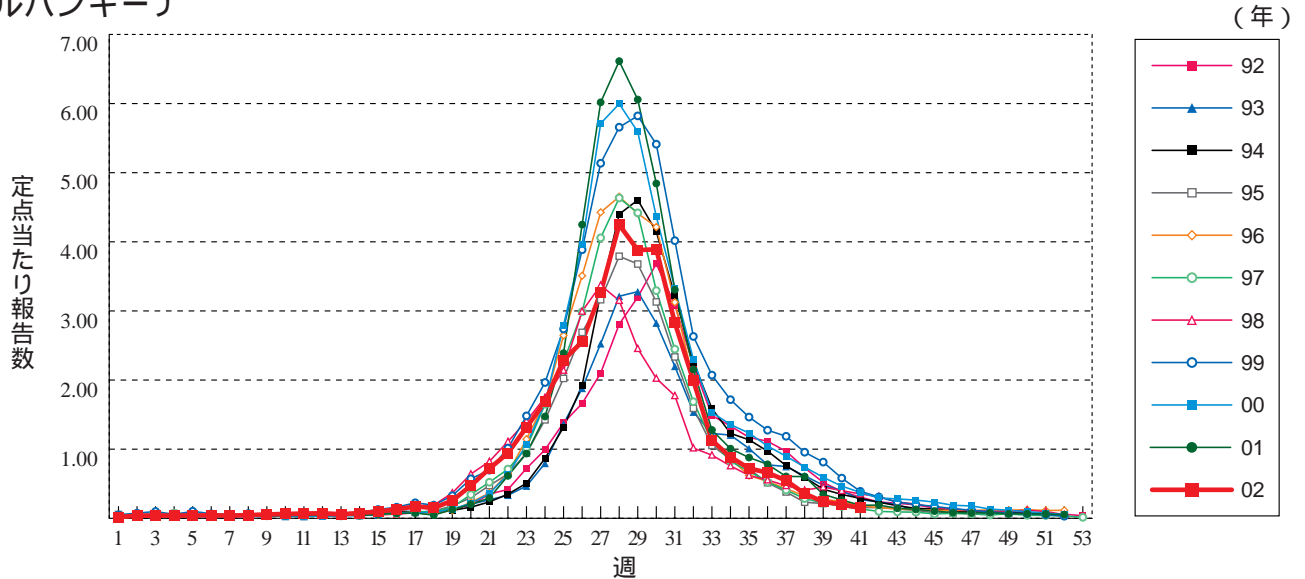
百日咳



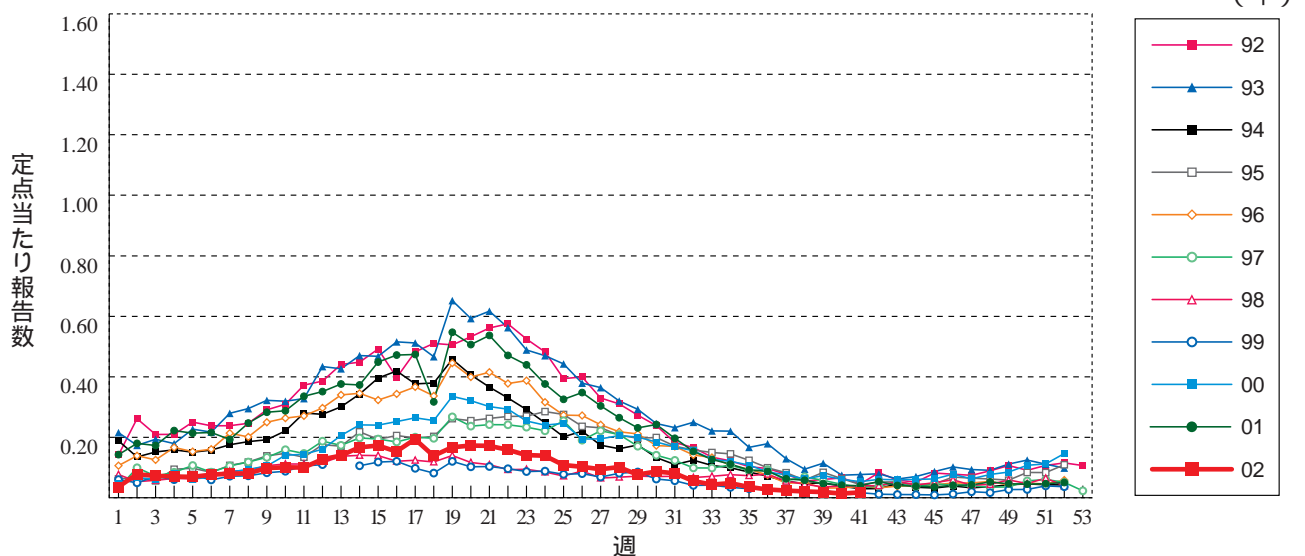
風 疹



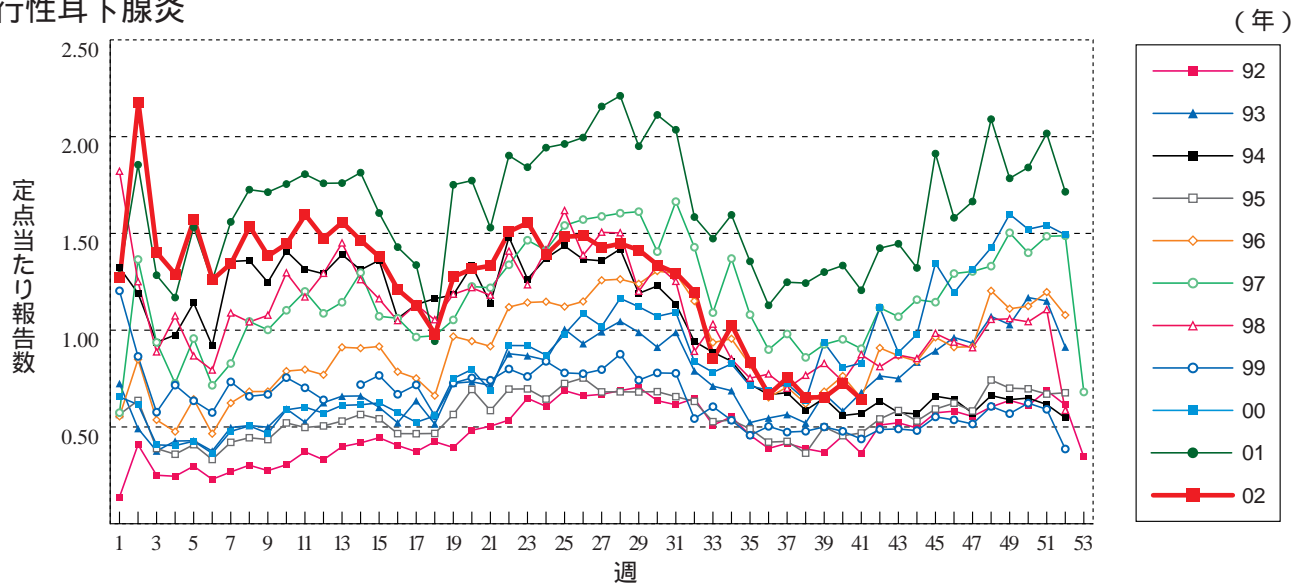
ヘルパンギーナ



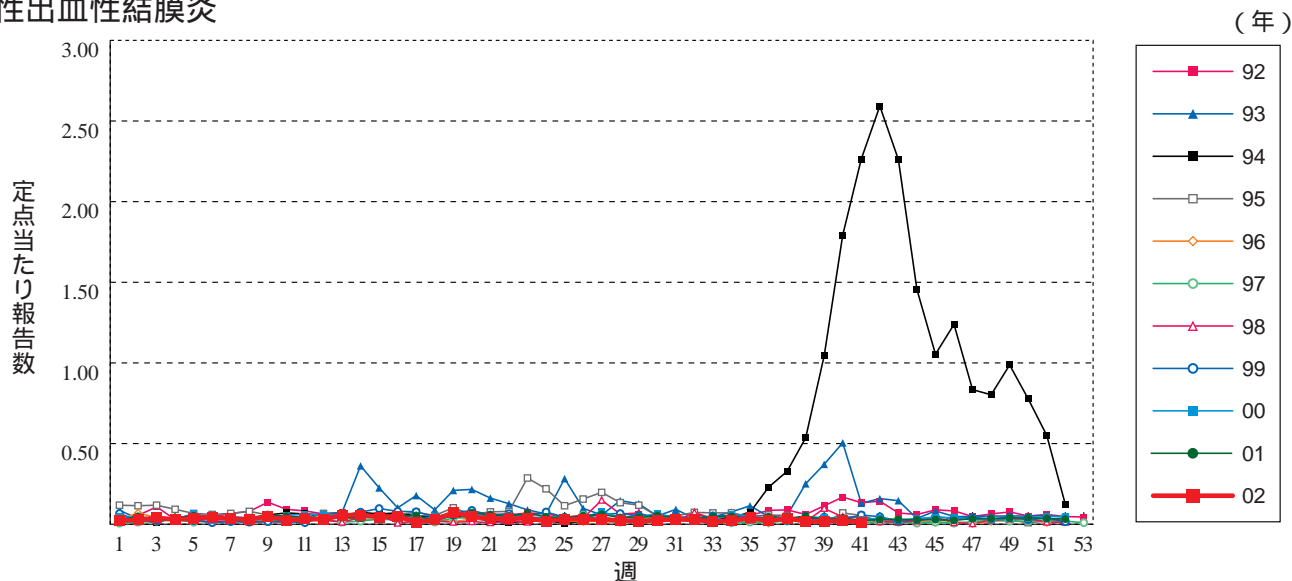
麻 疹 (成人麻疹を除く) 1999年の12週以前は成人麻疹を含む



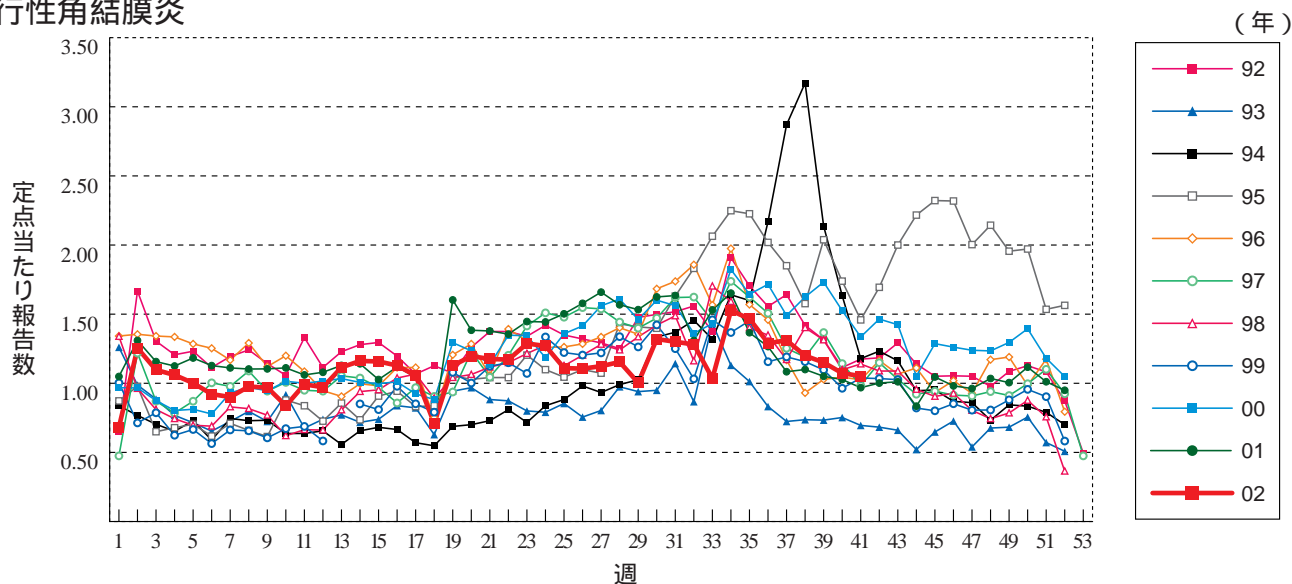
流行性耳下腺炎



急性出血性結膜炎

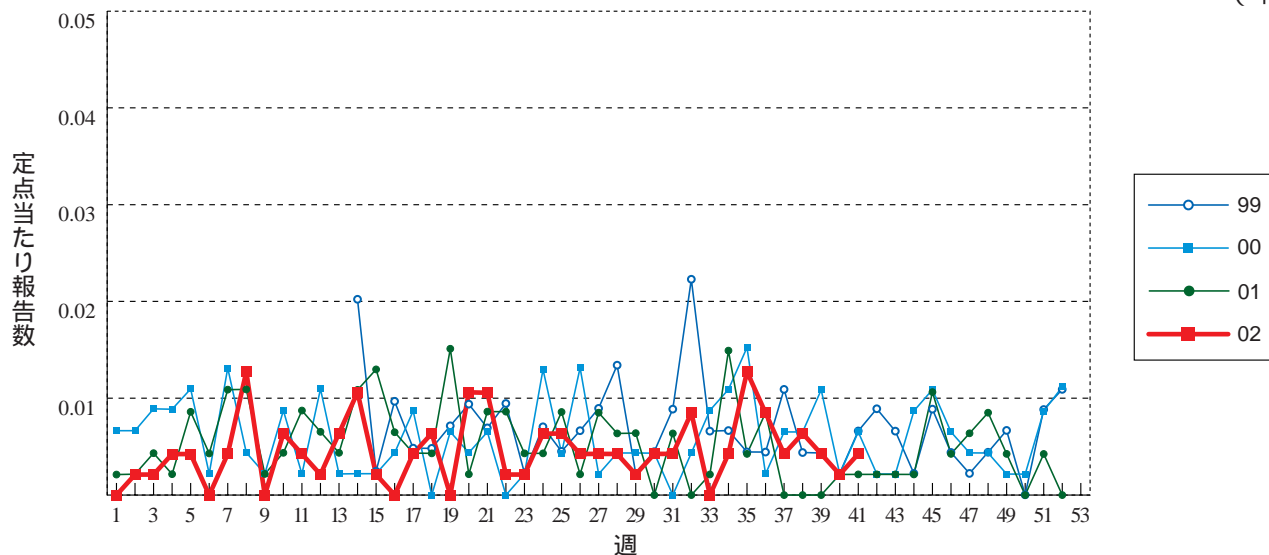


流行性角結膜炎



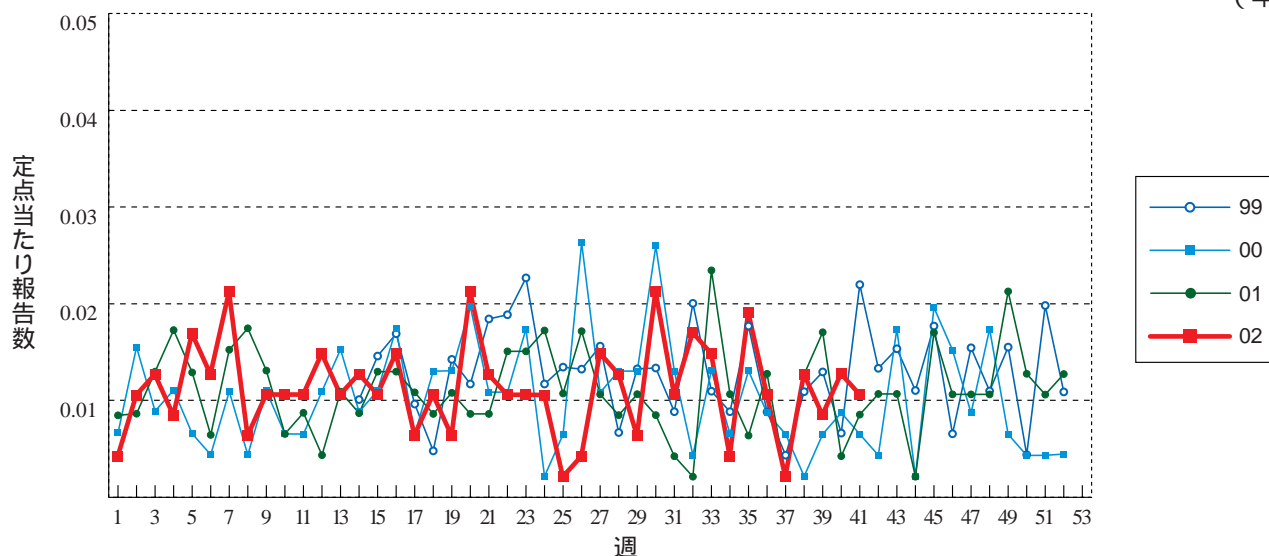
急性脳炎（日本脳炎を除く）

(年)



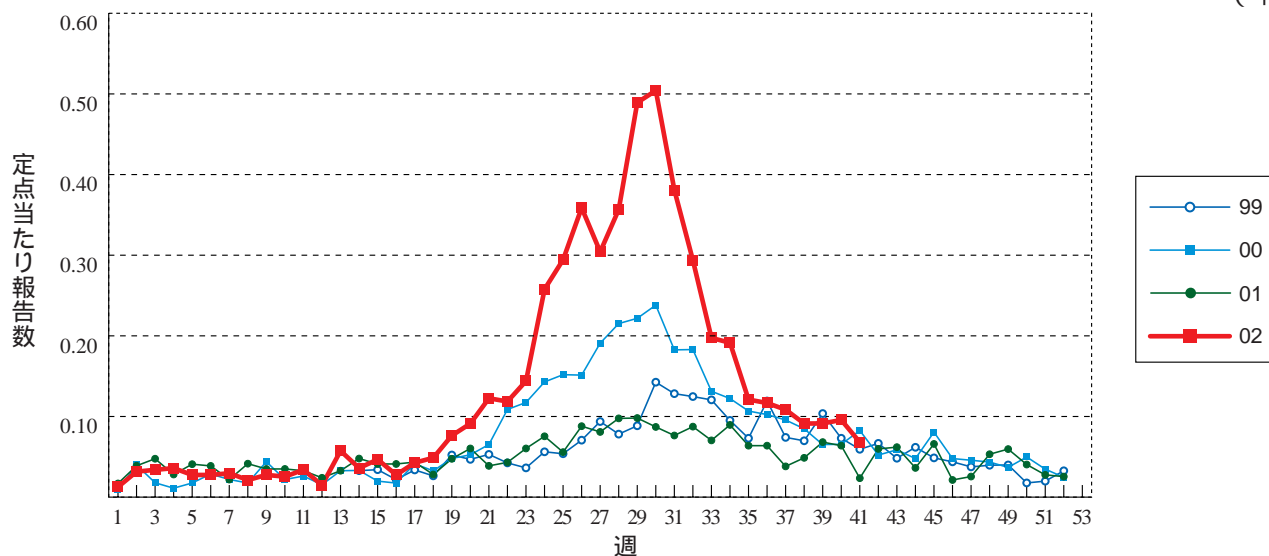
細菌性髄膜炎

(年)



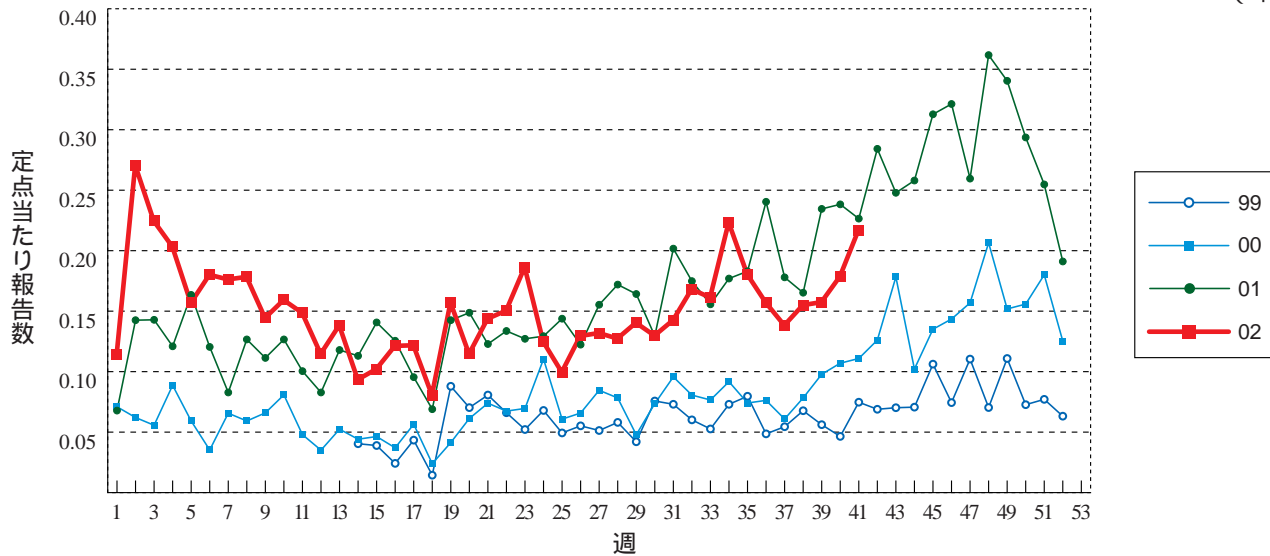
無菌性髄膜炎

(年)



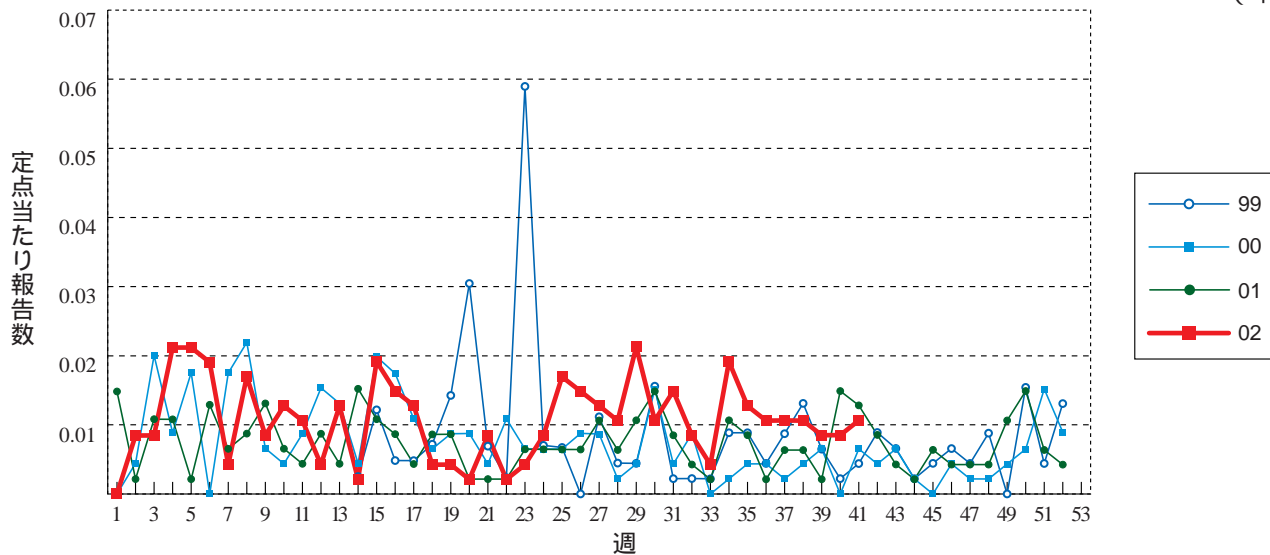
マイコプラズマ肺炎

(年)



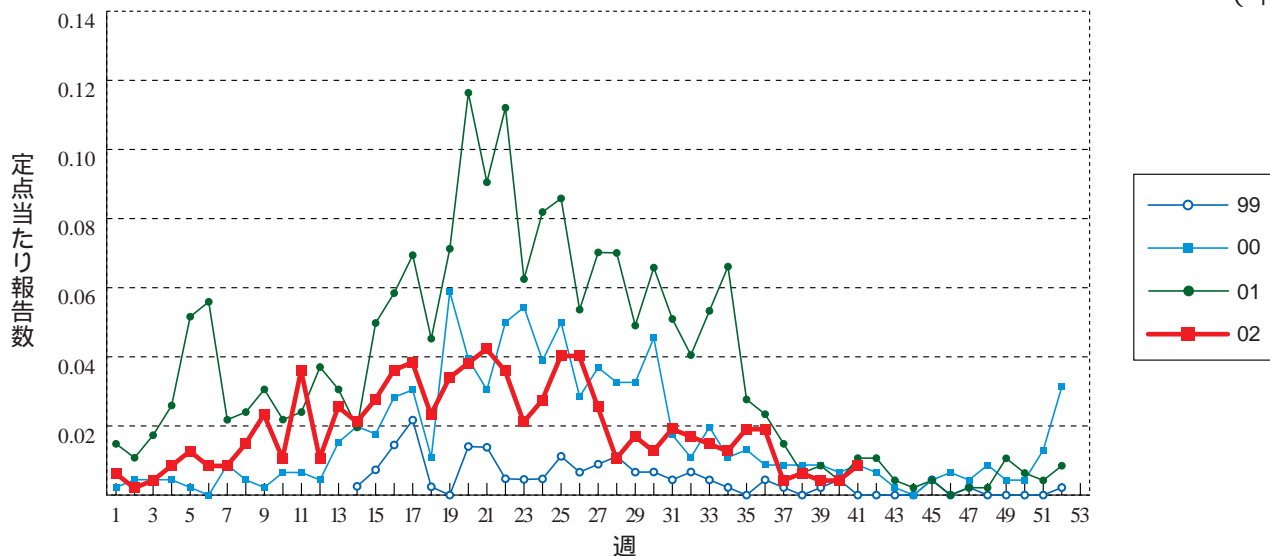
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)

(年)



成人麻疹

(年)





41週 of データ

注)表中の報告数は10月17日集計分であり、その後の報告数は次週以降の累計に反映されます。

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成14年41週

	エボラ出血熱		クリミア・コンゴ出血熱		ペスト		マールブルグ病		ラッサ熱		コレラ		細菌性赤痢		腸チフス		バラチフス		
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	
総 数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	44	9	576	-	53	-	27	-	-
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	10	-	2	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	18	-	-	-	-	-	1
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	31	-	1	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	8	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	25	-	2	-	-	-	1
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	-	77	-	2	-	-	-	1
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14	2	84	-	21	-	-	-	10
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	31	-	4	-	-	-	1
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	1	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	27	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	8	-	1	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	26	-	-	-	-	1
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	35	-	-	-	-	-	1
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	16	-	-	-	-	-	2
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	8	-	1	-	-	-	1
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	1
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14	-	-	-	-	-	2
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	38	-	6	-	-	-	3
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	11	-	4	-	-	-	1
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	5	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	1	-	-	-	1
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	17	-	4	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	29	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成14年41週

	急性灰白髄炎		ジフテリア		腸管出血性大腸菌感染症		アメーバ赤痢		エキノコックス症		黄熱		オウム病		回歸熱		ウイルス性肝炎	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	-	-	-	68	2845	2	363	-	7	-	-	-	49	-	-	3	779
北海道	-	-	-	-	1	108	-	16	-	6	-	-	-	3	-	-	-	14
青森県	-	-	-	-	-	24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
岩手県	-	-	-	-	-	89	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10
宮城県	-	-	-	-	1	59	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	34
秋田県	-	-	-	-	2	50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
山形県	-	-	-	-	2	37	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13
福島県	-	-	-	-	1	18	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
茨城県	-	-	-	-	-	16	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14
栃木県	-	-	-	-	8	174	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
群馬県	-	-	-	-	1	35	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	1	12
埼玉県	-	-	-	-	2	62	-	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	29
千葉県	-	-	-	-	-	129	-	18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	42
東京都	-	-	-	-	2	164	1	100	-	-	-	-	-	3	-	-	-	138
神奈川県	-	-	-	-	1	83	-	29	-	-	-	-	-	-	-	-	1	37
新潟県	-	-	-	-	-	18	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
富山県	-	-	-	-	-	27	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
石川県	-	-	-	-	3	106	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
福井県	-	-	-	-	-	30	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
山梨県	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
長野県	-	-	-	-	2	85	-	3	-	-	-	-	-	2	-	-	-	11
岐阜県	-	-	-	-	-	18	-	11	-	-	-	-	-	3	-	-	-	18
静岡県	-	-	-	-	2	42	-	6	-	-	-	-	-	2	-	-	-	20
愛知県	-	-	-	-	1	92	-	17	-	-	-	-	-	1	-	-	-	45
三重県	-	-	-	-	-	10	-	3	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
滋賀県	-	-	-	-	-	12	-	6	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2
京都府	-	-	-	-	5	49	-	10	-	-	-	-	-	2	-	-	-	20
大阪府	-	-	-	-	4	199	-	48	-	-	-	-	-	5	-	-	1	57
兵庫県	-	-	-	-	3	174	-	17	-	-	-	-	-	2	-	-	-	44
奈良県	-	-	-	-	-	25	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13
和歌山県	-	-	-	-	-	20	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	6
鳥取県	-	-	-	-	-	12	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3
島根県	-	-	-	-	-	28	-	-	-	-	-	-	-	11	-	-	-	2
岡山県	-	-	-	-	3	79	-	7	-	-	-	-	-	1	-	-	-	16
広島県	-	-	-	-	-	41	-	3	-	-	-	-	-	8	-	-	-	23
山口県	-	-	-	-	1	27	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	18
徳島県	-	-	-	-	-	17	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
香川県	-	-	-	-	-	17	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
愛媛県	-	-	-	-	1	15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
高知県	-	-	-	-	-	15	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
福岡県	-	-	-	-	3	242	-	6	-	-	-	-	-	1	-	-	-	28
佐賀県	-	-	-	-	-	166	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
長崎県	-	-	-	-	-	35	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
熊本県	-	-	-	-	4	55	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
大分県	-	-	-	-	13	33	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
宮崎県	-	-	-	-	1	33	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	8
鹿児島県	-	-	-	-	1	31	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
沖縄県	-	-	-	-	-	38	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成14年41週

	Q 熱		狂 犬 病		クリプト スポリジウム症		クロイツフェルト ・ヤコブ病		劇症型溶血性 レンサ球菌感染症		後天性 免疫不全症候群		コクシジ オイデス症		ジアルジア症		腎症候性出血熱	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	36	-	-	-	107	2	101	-	72	8	721	-	3	2	94	-	-
北海道	-	1	-	-	-	35	-	3	-	4	-	11	-	-	-	1	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	6	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
山形県	-	1	-	-	-	-	-	2	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	1	-	3	-	-	-	26	-	-	-	2	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	13	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	4	-	15	-	-	-	1	-	-
埼玉県	-	1	-	-	-	-	1	2	-	3	-	25	-	-	-	1	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	5	-	2	-	6	-	35	-	1	-	4	-	-
東京都	-	27	-	-	-	3	-	8	-	8	5	289	-	-	1	40	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	9	-	2	1	47	-	-	-	8	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	2	-	1	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	3	-	-	-	1	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	9	-	-	-	3	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	21	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	1	-	-	-	-	-	3	-	1	-	5	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	1	-	-	-	-	-	1	-	3	-	15	-	-	-	1	-	-
愛知県	-	1	-	-	-	-	-	6	-	6	-	41	-	-	-	3	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	3	-	2	-	7	-	-	-	8	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	2	-	6	-	-	1	72	-	1	-	7	-	-
兵庫県	-	1	-	-	-	61	-	4	-	5	-	14	-	-	-	2	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	2	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-
岡山県	-	1	-	-	-	-	-	2	-	1	-	4	-	-	1	3	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	5	-	-	-	4	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	4	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-
福岡県	-	1	-	-	-	-	-	7	-	2	-	7	-	-	-	1	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	6	-	-	-	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成14年41週

	髄膜炎菌性髄膜炎		先天性風疹症候群		炭疽		ツツガムシ病		デング熱		日本紅斑熱		日本脳炎		乳児ポツリヌス症		梅毒	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	5	-	-	-	-	-	127	-	46	1	19	-	5	-	-	4	440
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	18
青森県	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	2
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
山形県	-	-	-	-	-	-	-	10	-	1	-	-	-	-	-	-	-	5
福島県	-	-	-	-	-	-	-	15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	4
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	1	10
千葉県	-	1	-	-	-	-	-	4	-	1	-	-	-	-	-	-	-	6
東京都	-	1	-	-	-	-	-	4	-	14	-	-	-	-	-	-	-	47
神奈川県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-	-	-	-	-	17
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	3
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	3
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
長野県	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
静岡県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	10
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	21
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	1	-	-	-	-	2	90
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	3	-	-	-	-	-	24
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1
島根県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	1	4	-	-	-	-	-	4
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	10
広島県	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-	-	3	-	-	-	-	9
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	2
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	14
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	3
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11
大分県	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	1	-	-	-	-	-	3
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	20	-	-	-	3	-	-	-	-	-	6
沖縄県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成14年41週

	破傷風		バンコマイシン耐性腸球菌感染症		ハンタウイルス肺症候群		Bウイルス病		ブルセラ症		発疹チフス		マラリア		ライム病		レジオネラ症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	1	79	-	32	-	-	-	-	-	1	-	-	-	64	-	14	3	139
北海道	-	5	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	7	-	-
青森県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
秋田県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
山形県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	4
福島県	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	4
茨城県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	2
栃木県	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
群馬県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	1	6
千葉県	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2
東京都	-	6	-	6	-	-	-	-	1	-	-	-	22	-	1	-	-	13
神奈川県	-	3	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	2	-	-	-
新潟県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	3
富山県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
静岡県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	7
愛知県	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	4
三重県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	2
大阪府	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	10	-	-	-	-	9
兵庫県	1	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	4
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
鳥取県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
岡山県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	3
広島県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
山口県	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
徳島県	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
福岡県	-	3	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	3
佐賀県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
大分県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
宮崎県	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	37
鹿児島県	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	10
沖縄県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成14年41週

	インフルエンザ		咽頭結膜熱		A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎		感染性胃腸炎		水痘		手足口病		伝染性紅斑		突発性発疹		百日咳	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	54	0.01	167	0.06	1732	0.57	8589	2.84	2178	0.72	1870	0.62	344	0.11	2386	0.79	32	0.01
北海道	2	0.01	14	0.10	147	1.01	185	1.28	125	0.86	248	1.71	36	0.25	103	0.71	7	0.05
青森県	1	0.02	-	-	13	0.31	48	1.14	59	1.40	54	1.29	10	0.24	31	0.74	-	-
岩手県	3	0.05	-	-	7	0.18	42	1.11	26	0.68	15	0.39	8	0.21	18	0.47	1	0.03
宮城県	1	0.01	2	0.03	25	0.42	179	3.03	27	0.46	57	0.97	15	0.25	50	0.85	-	-
秋田県	-	-	3	0.09	20	0.57	77	2.20	20	0.57	4	0.11	5	0.14	15	0.43	-	-
山形県	2	0.04	-	-	26	0.87	45	1.50	27	0.90	49	1.63	2	0.07	31	1.03	-	-
福島県	-	-	-	-	25	0.54	109	2.37	26	0.57	66	1.43	7	0.15	43	0.93	-	-
茨城県	-	-	-	-	21	0.28	82	1.11	40	0.54	62	0.84	13	0.18	37	0.50	-	-
栃木県	-	-	1	0.02	23	0.50	100	2.17	34	0.74	33	0.72	4	0.09	34	0.74	1	0.02
群馬県	-	-	5	0.08	32	0.52	85	1.37	46	0.74	9	0.15	9	0.15	38	0.61	-	-
埼玉県	2	0.01	6	0.04	113	0.71	383	2.39	140	0.88	77	0.48	8	0.05	177	1.11	3	0.02
千葉県	-	-	5	0.04	75	0.58	235	1.82	90	0.70	23	0.18	10	0.08	98	0.76	3	0.02
東京都	-	-	12	0.08	42	0.30	319	2.25	56	0.39	35	0.25	15	0.11	87	0.61	-	-
神奈川県	1	0.00	17	0.08	85	0.41	418	2.04	100	0.49	94	0.46	12	0.06	190	0.93	1	0.00
新潟県	1	0.01	2	0.03	27	0.45	313	5.22	54	0.90	52	0.87	21	0.35	38	0.63	3	0.05
富山県	-	-	1	0.03	21	0.72	135	4.66	14	0.48	20	0.69	2	0.07	40	1.38	-	-
石川県	-	-	1	0.03	13	0.45	134	4.62	25	0.86	20	0.69	1	0.03	17	0.59	-	-
福井県	-	-	3	0.14	16	0.73	120	5.45	46	2.09	6	0.27	8	0.36	11	0.50	2	0.09
山梨県	11	0.27	-	-	9	0.36	27	1.08	10	0.40	1	0.04	-	-	8	0.32	-	-
長野県	-	-	10	0.19	61	1.15	179	3.38	50	0.94	32	0.60	12	0.23	31	0.58	-	-
岐阜県	-	-	-	-	19	0.40	48	1.02	50	1.06	77	1.64	3	0.06	40	0.85	1	0.02
静岡県	-	-	14	0.16	34	0.40	220	2.56	52	0.60	43	0.50	15	0.17	74	0.86	2	0.02
愛知県	8	0.04	7	0.04	87	0.48	280	1.54	102	0.56	95	0.52	16	0.09	131	0.72	2	0.01
三重県	2	0.03	-	-	30	0.67	167	3.71	28	0.62	17	0.38	10	0.22	58	1.29	-	-
滋賀県	-	-	9	0.28	7	0.22	23	0.72	21	0.66	14	0.44	2	0.06	19	0.59	-	-
京都府	-	-	-	-	27	0.36	227	2.99	43	0.57	45	0.59	3	0.04	47	0.62	1	0.01
大阪府	-	-	13	0.07	98	0.50	445	2.28	111	0.57	74	0.38	18	0.09	120	0.62	1	0.01
兵庫県	2	0.01	5	0.04	69	0.54	463	3.62	96	0.75	68	0.53	12	0.09	109	0.85	-	-
奈良県	-	-	-	-	11	0.31	70	2.00	21	0.60	53	1.51	3	0.09	35	1.00	1	0.03
和歌山県	-	-	-	-	6	0.19	40	1.29	35	1.13	12	0.39	4	0.13	9	0.29	-	-
鳥取県	-	-	1	0.05	12	0.63	88	4.63	14	0.74	20	1.05	7	0.37	26	1.37	-	-
島根県	-	-	2	0.09	9	0.39	49	2.13	10	0.43	2	0.09	1	0.04	13	0.57	-	-
岡山県	-	-	-	-	28	0.64	129	2.93	39	0.89	19	0.43	5	0.11	29	0.66	-	-
広島県	-	-	5	0.07	29	0.39	230	3.07	45	0.60	60	0.80	3	0.04	67	0.89	1	0.01
山口県	-	-	-	-	54	1.10	213	4.35	36	0.73	4	0.08	1	0.02	38	0.78	-	-
徳島県	-	-	-	-	13	0.57	44	1.91	19	0.83	16	0.70	1	0.04	14	0.61	-	-
香川県	-	-	-	-	25	0.78	97	3.03	22	0.69	19	0.59	5	0.16	21	0.66	-	-
愛媛県	-	-	3	0.08	56	1.44	240	6.15	20	0.51	83	2.13	10	0.26	40	1.03	-	-
高知県	-	-	1	0.03	22	0.71	50	1.61	28	0.90	1	0.03	4	0.13	27	0.87	-	-
福岡県	1	0.01	7	0.06	121	1.01	642	5.35	81	0.68	13	0.11	6	0.05	126	1.05	-	-
佐賀県	-	-	5	0.22	25	1.09	89	3.87	20	0.87	14	0.61	1	0.04	33	1.43	-	-
長崎県	-	-	2	0.05	28	0.64	89	2.02	39	0.89	-	-	3	0.07	23	0.52	-	-
熊本県	-	-	6	0.12	42	0.86	195	3.98	66	1.35	6	0.12	5	0.10	55	1.12	-	-
大分県	2	0.03	3	0.08	28	0.78	393	10.92	29	0.81	3	0.08	2	0.06	32	0.89	1	0.03
宮崎県	-	-	2	0.05	38	1.03	466	12.59	50	1.35	21	0.57	2	0.05	54	1.46	1	0.03
鹿児島県	14	0.15	-	-	12	0.20	340	5.76	47	0.80	43	0.73	2	0.03	34	0.58	-	-
沖縄県	1	0.02	-	-	1	0.03	37	1.09	39	1.15	91	2.68	2	0.06	15	0.44	-	-

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成14年41週

	風 疹		ヘルパンギーナ		麻 疹 (成人麻疹を除く)		流行性耳下腺炎		急性出血性 結膜炎		流行性角結膜炎		急性脳炎 (日本脳炎を除く)		細菌性髄膜炎		無菌性髄膜炎	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総 数	13	0.00	454	0.15	53	0.02	1940	0.64	7	0.01	664	1.05	2	0.00	5	0.01	32	0.07
北海道	-	-	34	0.23	3	0.02	107	0.74	-	-	35	1.21	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	10	0.24	1	0.02	33	0.79	-	-	10	0.91	-	-	-	-	10	2.00
岩手県	1	0.03	4	0.11	-	-	68	1.79	-	-	3	0.25	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	16	0.27	-	-	117	1.98	-	-	2	0.18	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	3	0.09	-	-	55	1.57	-	-	6	0.86	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	3	0.10	-	-	37	1.23	-	-	4	0.50	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	8	0.17	22	0.48	55	1.20	-	-	10	0.83	-	-	-	-	-	-
茨城県	1	0.01	2	0.03	3	0.04	23	0.31	-	-	30	1.88	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	2	0.04	-	-	37	0.80	-	-	26	2.17	-	-	-	-	1	0.14
群馬県	-	-	11	0.18	-	-	44	0.71	-	-	89	6.36	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	19	0.12	1	0.01	87	0.54	1	0.03	38	1.12	-	-	1	0.11	-	-
千葉県	1	0.01	8	0.06	2	0.02	58	0.45	1	0.03	35	1.03	-	-	1	0.08	1	0.08
東京都	-	-	16	0.11	1	0.01	35	0.25	-	-	15	1.07	-	-	-	-	-	-
神奈川県	-	-	28	0.14	-	-	86	0.42	2	0.05	40	0.95	-	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	9	0.15	2	0.03	59	0.98	-	-	8	0.89	-	-	1	0.08	2	0.17
富山県	-	-	8	0.28	-	-	24	0.83	-	-	4	0.57	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	1	0.03	-	-	5	0.17	-	-	7	1.00	-	-	-	-	-	-
福井県	3	0.14	1	0.05	-	-	3	0.14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	1	0.04	-	-	9	0.36	-	-	1	0.33	-	-	-	-	1	0.10
長野県	-	-	6	0.11	-	-	18	0.34	-	-	12	1.20	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	14	0.30	4	0.09	31	0.66	-	-	7	0.64	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	11	0.13	-	-	55	0.64	-	-	7	0.35	-	-	-	-	1	0.10
愛知県	2	0.01	15	0.08	3	0.02	95	0.52	-	-	22	0.63	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	11	0.24	-	-	23	0.51	-	-	3	0.25	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	1	0.03	-	-	20	0.63	-	-	3	0.43	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	8	0.11	-	-	38	0.50	1	0.06	9	0.50	-	-	-	-	-	-
大阪府	1	0.01	34	0.17	1	0.01	64	0.33	1	0.02	24	0.46	-	-	-	-	2	0.13
兵庫県	1	0.01	19	0.15	-	-	84	0.66	-	-	20	0.56	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	4	0.11	-	-	24	0.69	-	-	12	1.33	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	5	0.16	3	0.10	22	0.71	-	-	7	1.75	-	-	-	-	1	0.09
鳥取県	-	-	3	0.16	-	-	22	1.16	-	-	4	1.33	-	-	-	-	1	0.20
島根県	-	-	2	0.09	-	-	18	0.78	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.13
岡山県	-	-	5	0.11	-	-	40	0.91	-	-	6	0.75	-	-	-	-	1	0.25
広島県	-	-	14	0.19	5	0.07	40	0.53	-	-	16	0.80	1	0.05	-	-	4	0.19
山口県	-	-	1	0.02	-	-	14	0.29	-	-	6	0.67	-	-	-	-	-	-
徳島県	1	0.04	4	0.17	-	-	9	0.39	-	-	3	0.75	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	3	0.09	-	-	15	0.47	-	-	1	0.33	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	18	0.46	-	-	24	0.62	-	-	27	3.86	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	9	0.29	-	-	26	0.84	-	-	9	3.00	-	-	-	-	1	0.13
福岡県	1	0.01	12	0.10	-	-	53	0.44	1	0.04	46	1.77	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	1	0.04	-	-	14	0.61	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	4	0.09	1	0.02	40	0.91	-	-	7	0.88	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	21	0.43	-	-	17	0.35	-	-	11	1.22	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	17	0.47	-	-	43	1.19	-	-	3	0.60	-	-	-	-	-	-
宮崎県	1	0.03	19	0.51	1	0.03	72	1.95	-	-	25	6.25	-	-	-	-	1	0.14
鹿児島県	-	-	7	0.12	-	-	51	0.86	-	-	5	0.83	-	-	1	0.08	3	0.25
沖縄県	-	-	2	0.06	-	-	26	0.76	-	-	6	0.60	1	0.14	1	0.14	1	0.14

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別 平成14年41週

	マイコプラズマ肺炎		クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		成人麻疹	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	102	0.22	5	0.01	4	0.01
北海道	1	0.04	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-
岩手県	10	0.50	-	-	-	-
宮城県	5	0.42	2	0.17	-	-
秋田県	7	0.88	-	-	-	-
山形県	5	0.50	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-
栃木県	3	0.43	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	1	0.11
千葉県	4	0.31	1	0.08	1	0.08
東京都	5	0.20	-	-	2	0.08
神奈川県	1	0.09	-	-	-	-
新潟県	18	1.50	-	-	-	-
富山県	1	0.20	-	-	-	-
石川県	2	0.40	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-
山梨県	3	0.30	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-
静岡県	1	0.10	-	-	-	-
愛知県	4	0.31	-	-	-	-
三重県	1	0.11	-	-	-	-
滋賀県	1	0.14	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-
大阪府	4	0.27	-	-	-	-
兵庫県	-	-	1	0.08	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-
島根県	1	0.13	-	-	-	-
岡山県	1	0.25	-	-	-	-
広島県	4	0.19	-	-	-	-
山口県	2	0.25	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	1	0.17	-	-
高知県	3	0.38	-	-	-	-
福岡県	2	0.13	-	-	-	-
佐賀県	1	0.17	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-
熊本県	2	0.13	-	-	-	-
大分県	1	0.09	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	2	0.17	-	-	-	-
沖縄県	7	1.00	-	-	-	-

感染症週報 第4巻、第41号 平成14年10月25日発行
 発行：国立感染症研究所
 厚生労働省健康局結核感染症課
 厚生労働省大臣官房統計情報部
 事務局：国立感染症研究所感染症情報センター
 〒162-8640東京都新宿区戸山1-23-1
 T E L : 03-5285-1111
 F A X : 03-5285-1129
 U R L : <http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>
 <国立感染症研究所 感染症情報センター>
<http://www.mhlw.go.jp/>
 <厚生労働省>
<http://www.forth.go.jp/>
 <旅行者のための海外感染症情報(厚生労働省検疫所)>

本週報は、感染症新法に基づくものであり、全国の医療従事者、定点医療機関、保健所、保健所設置市、特別区、都道府県、地方衛生研究所、検疫所の皆様のご協力を得て、国立感染症研究所感染症情報センターにおいて編集したものです。

また、本週報は速報性を重視しておりますので、今後調査などの結果に応じて、若干の変更が生じることがありますが、その場合には週報上にて訂正させていただきます。

「感染症の話」及び「読者のコーナー」の回答欄の内容に関する責は、それぞれの執筆者及び回答者に属しますが、内容に関するご質問、ご意見については事務局でお受けいたします。

なお、週報の内容について、学術的研究、あるいは公衆衛生活動にかかわる業務以外の目的においては、無断転載を禁じます。